

Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



2026 SPRING 発行



留学中のみなさんから、中間レポートが届きました!



外国留学中間レポート 2026 SPRING

目次

ウィーバー州立大学（アメリカ）	2
経済学部経済学科 4年	2
ウィーバー州立大学（アメリカ）	3
文学部英語英米文学科 4年	3
フォートリスカレッジ（アメリカ）	4
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 4年	4
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	5
経営学部経営学科 2年	5
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	6
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年	6
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	7
グローバル教養学環 3年	7
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	8
グローバル教養学環 3年	8
ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）	9
グローバル教養学環 2年	9
ビクトリア大学（カナダ）	10
グローバル教養学環 3年	10
リーズ大学（イギリス）	11
文学部社会学科 3年	11
イーデス・コーワン大学（オーストラリア）	12
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年	12
ライプツィヒ大学（ドイツ）	13
グローバル教養学環 3年	13
厦門大学（中国）	13
グローバル教養学環 3年	14
国立聯合大学（台湾）	15
グローバル教養学環 3年	15

ウィーバー州立大学（アメリカ）

経済学部経済学科 4年

【ダブルディグリープログラム】留学期間：2024年8月～2026年4月

私はダブルディグリープログラムで国際経済学を学ぶことを目的としてアメリカ・ユタ州のウィーバー州立大学へ留学しました。世界経済のつながりがますます強くなる中で、国際金融や国際貿易の仕組みを海外で直接学び、より実践的な知識と視野を身につけたいと考えたことが留学の大きな理由です。日本で学ぶだけでは得られない国際的な環境の中で、経済の理論と実際の世界との関係を理解したいと考え、この留学を決意しました。

今学期は、主に国際金融や暗号資産に関する授業を履修しました。国際金融の授業では、ヘッジファンディングや為替レートの仕組みについて学び、為替市場が各国の経済や企業活動にどのような影響を与えるのかについて理解を深めました。為替レートの変動が輸出入や投資に与える影響を学ぶことで、国際経済がどのように相互に結びついているのかを具体的に考えることができました。また、暗号通貨に関する授業では、ビットコインをはじめとするデジタル通貨の仕組みや、その経済的な意義、金融システムへの影響について学びました。新しい技術が金融市場や国際経済にどのような変化をもたらすのかを考えることは非常に興味深く、現代経済の新しい側面を理解する貴重な機会となりました。さらに、ゼミでは「The Effect of Tariffs and Free Trade Agreements (FTAs) on Automobile Imports from South Korea into OECD countries」というテーマで研究を行いました。この研究では、関税や自由貿易協定が韓国からの自動車輸入にどのような影響を与えるのかをパネルデータを作成して、それをもとに計量経済モデルを使って分析をしました。国際貿易において関税政策や自由貿易協定が果たす役割は非常に大きく、それらが実際の貿易量や市場にどのように影響するのかをデータを用いて分析することで、国際経済政策の重要性をより深く理解することができました。

生活面では、アメリカの文化を直接体験する機会も多くありました。特に、Thanksgiving や Christmas などの祝日を現地の人々と過ごした経験は非常に印象的でした。家族や友人が集まり、食事や会話を楽しむアメリカの文化は、日本とは異なる温かさや価値観を感じることができました。このような経験を通して、文化の違いを理解することの大切さを実感しました。一方で、留学生活の中では孤独を感じることもありました。慣れない環境の中で新しい人間関係を築くことは簡単ではなく、最初の頃は戸惑うことも多くありました。しかし、できるだけ寮に閉じこもらず、積極的に外に出て人と関わることを意識しました。スキーの授業や大学の活動を通して多くの学生と交流することで、少しずつ環境に慣れ、人とのつながりを広げることができました。

この留学を通して、異なる文化や背景を持つ多くの人々と出会い、自分の視野を大きく広げることができました。また、困難な状況に直面したときでも、それを乗り越える力や前向きに行動する姿勢の大切さを学びました。今回の留学経験は、学問的な知識だけでなく、人としての成長にも大きく影響したと感じています。今後は、この経験を活かしながら、国際的な視野を持って社会や経済について考え、将来の進路にもつなげていきたいと考えています。



ウイバー州立大学（アメリカ）

文学部英語英米文学科 4年

【交換留学】留学期間：2025年8月～2026年4月



留学生活も半年が経ち、残すところ2カ月となりました。アメリカに来たころは、環境の変化についていくことで精一杯の日々でしたが、今では非常に充実した留学生活を送ることができています。ユタ州は雪が多く、寒いところだと聞いていました。しかし、今年の冬は例年に比べ雪が少なく、雪景色もあまり見られなかったことは残念でしたが、日本に近い気候であったため過ごしやすかったです。

学習面では、自分に過度な負担をかけすぎず、楽しみながら授業を受けることができています。前学期は、非常に満足のいく成績を収めることができた一方、一人で図書館に籠り勉強する時間が多く、人との関わりが少なかったため、今学期は友達との時間をとても大切にしています。その結果、授業内でもクラスメイトと会話することが増え、英語を話す機会が格段に増えました。しかしその反面、自分の思っていることを伝えることができないことも多くあり、もどかしさを感じる場面も依然としてあります。まだまだ勉強が必要だなと感じているところです。私に対して、ゆっくり話してくれて、話している最中

に、意味が分かるかどうか聞いてくれる友達もいるので、とても助かっています。また、会話で分からないところがあれば、曖昧にせず、その場で質問や確認ができるようになったことは、大きな自信に繋がっています。

生活面では、町へ出かけることが多くなりました。大学のあるオグデンの町は、車がないと不便な場所ではありますが、公共交通機関が無料なので、とても有難いです。バスや電車を使って、アメリカでしか食べられないものを食べたり、ショッピングモールへ行ったりしています。春休みには、ボストンへ旅行することもできました。8歳のころ、1年間住んでいた町に戻り、知人と再会できたことは、私にとって非常に有意義な時間となりました。同じアメリカ国内でありながら、ユタ州とは異なる街並みでとても興味深かったです。

この留学中、自分と向き合う時間が度々ありました。自分に自信を持ちたいと思い、留学を決めました。考え方も含め、とても自分自身が変わってきているように思います。残りの留学期間も悔いのない時間にしていきたいです。



フォートルイスカレッジ（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 4年

【交換留学】留学期間：2025年8月～2026年5月



フォートルイスカレッジで留学生活を開始してから、おおよそ7か月が経ちました。留学が始まった頃は、9か月という期間がとても長く感じられましたが、この地で新しい友達と過ごし、勉強をしていくうちに、不思議と時間の経過を早く感じるようになりました。留学を始めた頃の自分と比べると、今の自分は大きく成長したと感じています。語学力の面では、留学前よりも格段に英語を話しやすくなりました。具体的には、言いたいことを話すときに、頭で考えるよりも先に口が動いて発話できるような感覚が身につきました。それだけでなく、以前よりも英語で映画などのエンターテインメントを楽しめるようになったり、論文を読む速度が上がったりと、語学力の向上を実感する場面が多くありました。

語学力以外の面では、自分に自信を持てるようになったことや、自分のこだわりを大切にできるようになったことが大きな変化です。もともとの自分の思慮深い性格に、日本にはないアメリカの文

化や考え方が加わったことで、自分自身の価値観をより深く理解し、他者の多様な考え方も以前より受け入れられるようになりました。

約1か月間あった冬休み期間は、やることが少ないため、旅行に行ったり友達と頻りに遊んだりするなど、過ごし方を工夫することが大切だと感じました。私はこの期間に、近くのウォルマートというスーパーに買い出しに行き、料理を作りました。普段はルームメイトに料理を作ってもらったり、ダイニングホールで食事をしたりすることが多かったため、自炊は私にとって新鮮な体験でした。

交友関係については、秋学期の頃から知り合っている人たちとはさらに仲良くなりましたし、最近出会って親しくなった人たちもいます。留学生活を充実させるうえで、交友関係はとても重要だと感じました。

これから留学に来る人へのアドバイスとして、語学の勉強ももちろん大切ですが、それ以上に自分の特技や趣味を持つことが重要だと思います。特技や趣味は自分の個性であり、現地の人にとっても関わりやすいきっかけになります。また、自分にとって居心地のよいグループやサークルにも入りやすくなります。フォートルイスカレッジには多くのグループがあり、キャンパスもそれほど広くないため、自然と友達を作りやすく、留学生活を充実させやすい環境だと思います。

今回の留学を通して、私は多くの貴重な経験を積み、たくさんの友達を作ることができました。この学校に交換留学生として通う機会を得られたことを、本当に良かったと感じています。残りわずかな期間ではありますが、最後まで留学生活を大切に過ごしたいと思います。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

経営学部経営学科 2年

【奨励留学】留学期間：2026年2月～2026年7月

この留学が始まって、1ヶ月半が経ちました。初めての留学、初めての一人暮らし、初めてのインターンシップ。私にとって何もかも初めての生活で、最初は戸惑いもたくさんありましたが、同じプログラムに参加するみんなや、ルームメイトのおかげで2、3週間もすれば慣れてきました。

現在、私は、ウォルト・ディズニー・ワールドの、マジックキングダムというパークで、merchandise castとして働いています。カリブの海賊の出口のお店と、屋外の小さめのお店、シャボン玉売りのカートの3つが職場です。こんなにいくつも持ち場があることは、着いてから知ったのでびっくりしました。レジ打ちの経験がなかったため、完全に1からのスタートで、それに加えてリスニング能力の無さもあり、トレーニングのときは苦労しましたが、トレーナーや、コーディネーター、リーダーたちが褒めて伸ばしてくれるのおかげで今はあまり不自由なく働いています。

特に、シャボン玉売りの仕事では、一人でカートを運営し、商品の補充も自分で要請しなければならず、無線を使う必要があるため、一番難しかったです。加えて、パークの人通りの多い場所に立っているため、道やショーの時間などを何度も聞かれます。いくつか持ち場があり、当日までわからないため、パークのことをよく知らないといけないことと、ゲストの問題を解決する英語力が必要なことが大変ですが、そのぶん、助けられたときに喜んでもらえたり、時には cast compliment を貰えたりするのがやりがいになっています。

生活について言えば、部屋はアメリカ人3人とのルームシェアで、寝室が同室のルームメイトが同じ職場なこともあり、毎日よく話します。みんな私より5歳ほど年上なので、気を遣ってくれているのかたくさん話しかけてくれます。個人主義な雰囲気を使いすぎない部屋です。また、週一回ある学校の日、Business Management と Leadership の授業を受講しています。Business Management の先生は現役 CEO と聞いてびっくりしました。日本で学んだ知識と、現場で感じたものと、学んだことが結びついていってとても有意義だと感じています。

この1ヶ月半があつという間すぎて、帰るころに何が自分の中に残るだろうかと考えています。やり残したことがないように一日一日を過ごしたいです。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【奨励留学】留学期間：2026年2月～2026年7月



私は今、アメリカフロリダ州のバレンシア大学で週に1回の授業を受け、週に1回ウォルトディズニーワールドのリゾートで働いています。1ヶ月以上経った現状を報告いたします。

まず、バレンシア大学の授業はビジネスマネジメント、リーダーシップディベロップメント、オンライン授業、アガデミックトレーニングの4つがあります。住んでいる寮にスクールバスがきて、そこから30分ほどのところに大学があります。授業は1日トータル6時間で、途中休憩もあります。クラスはABCに分けられ、1人のコロンビア人以外は全員日本人です。月に1度くらいの頻度でアメリカの文化に触れる課外授業があります。先月はアイスホッケーを観戦しました。生活については、最初日本からほとんど荷物を持ってこなかったため生活用品を揃えることが大変でした。しかし、今では生活が完全に整っています。私は普段実家暮らしのため一人暮らしの体験ができ、家族への感謝を改めて感じます。その反面困っていることはルームメイトです。ルームメイトはアラームを1時間かけ続けて起きなかったり、お風呂とトイレが同じ仕様なのですが長くこもって出てこなかったりします。このことを本人に話すかはまだ迷っています。1週間に1日のお休みがありますが、パークに行ったりお買い物に行ったり友達と自炊したり、一日中寝たりしています。

ディズニーでのお仕事はとても楽しいです。私はクイックフードサービスというお仕事をしています。職場が温かく優しい雰囲気、リラックスして働くことができます。ゲストからのギフトや感謝の言葉などで大変やりがいも感じる事ができ、職場の食べ物や飲み物もいただけるので幸せです。また、上司や年上の人とでも比較的フランクに話しができるところが嬉しいです。今までに起こったトラブルは休みをなかなか作ることができずに風邪をひいたことです。お仕事中に体調が次第に悪くなりました。そのとき正直にリーダーに言えばよかったです。少し無理していると思ったらすぐに休む選択肢を取ることが大切です。英語は大変ではありません。来る前は不安でしたが、完璧に話さなくても伝わるということが分かりました。伝えたいと思う気持ちが大切なことを学びました。しかし、完璧に聞き取ったり思いを伝えることができなかつたりするときは悔しいので、リスニングとスピーキングを頑張ります。最後に、私が今大事にしていることは2つあり、1つ目はお仕事で常に笑顔を忘れないということです。ディズニーに来てくれている一人ひとりのゲストに向き合い、ステージを降りても笑顔で楽しくいるということを意識しています。2つ目は、今を生きることです。以前は未来のことや過去のことを考える癖がありましたが、このままではすぐにプログラムを終えることになるから今の幸せに感謝をするよう心がけています。今後も引き続きこの貴重な経験を楽しみます。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

グローバル教養学環 3年

【奨励留学】留学期間：2026年2月～2026年5月

大学入学前から憧れで、在学中に達成したい目標のうちの一つであった「バレンシアカレッジプログラム」に参加し刺激的な毎日を送っています。現在は週5日程度ディズニーでインターンシップ、週1日バレンシアカレッジでリーダーシップ、ビジネスを学んでいます。

渡米初日から体調が酷く悪く、正直良い留学のスタートとは言えない状況でした。しかしそこからなんとか回復し、徐々にディズニーや大学のオリエンテーションをこなすうちに、「ついに留学が始まったんだ」と自分の中で現実味を帯びていきました。

初めてコスチュームを着た時は、自分もついにディズニーキャストの一員になるのかと不思議な気持ちでしたが、今ではコスチュームに職場である Toy Story Land のピンバッジをつけるなどちょっとしたオシャレを楽しんでいます。私の現在の仕事内容は「Seater」といい、主にゲストを出迎えレストラン内の座席に案内をするという内容です。他にも予約のチェックインやレストラン内の座席の情報のアップデート、厨房内でナイフ・フォーク類を拭く、テーブルセッティングなどがあります。最もやりがいを感じるのは、やはりゲストと一番関わることのできる座席への案内役です。レストランのコンセプトの説明や、お誕生日のゲストへの声掛けなど、実際にゲストが笑顔になる瞬間を楽しんでいる姿を見ることができるのは本当に嬉しいです。

しかし楽しいことだけではなく、まだ自分の英語力では説明の難しい事柄や、感情が昂っているゲストへの対応、インカムでの英語の聞き取りなど苦しいこともたくさんあります。しかし幸運なことに同僚が皆良い人たちばかりなので、助けを求め、毎日誰かに助けてもらいながらなんとか仕事をしています。

大学の授業では、ディズニーのインターンシップと絡めながら授業が進みます。そのため、実生活の経験を授業内容に重ねながら理解を深めることができ、授業で習った心構えを仕事に生かしてみたりもします。私はこの実践につながる学びのスタイルが非常に気に入っています。

これからまた役職が変わり、新しい仕事にも挑戦するので、いつでも気持ち新たに、その時自分にできることに精一杯取り組んで、最後まで勉強もインターンシップもやり遂げたいと思います。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

グローバル教養学環 3年

【奨励留学】留学期間：2026年2月～2026年7月



アメリカに来て、もうすぐ2ヶ月が経とうとしています。時間の経過の早さにとても驚いています。渡航前は、憧れの国・場所に行けることへの期待で胸が高鳴り、ワクワクとドキドキが止まらなかったことを今でもよく覚えています。

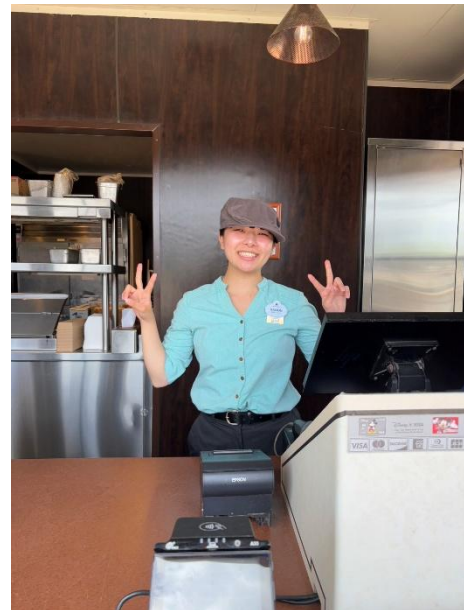
現在は寮で、私と日本人1人とアメリカ人2人の計4人で生活しています。アメリカ人のルームメイトとはシフトの関係であまり関わる機会はありませんが、顔を合わせた際には笑顔で手を振ってくれ、とても温かさを感じます。一方、日本人のルームメイトは同い年ということもあり話やすく、安心して日々を過ごすことができます。誕生日にはマフィンをプレゼントしてくれ、とても嬉しかったです。

現在、私は Disney Springs で ODV (Outdoor Vending) として働いています。レジ対応や軽食の調理に加え、材料の補充なども担当しています。Disney Springs には多くの店舗があり、覚えることも多いため、トレーニング期間も他の配属先より長く設定されていました。すべてのトレーニングを終え、一人で業務を任されるようになってからは、責任の重さ

を感じ、気持ちが落ち込むこともあります。周囲の優しい仲間を支えられながら前向きに取り組んでいます。

また、職場にはスペイン語やドイツ語を話す人も多く、異文化に触れる機会にも恵まれています。ゲストの中にもスペイン語を話す方が多いため、少しでも理解できるよう、言語学習アプリを使ってスペイン語の勉強にも力を入れています。

今後はマーチャンダイズへのロールチェンジも控えており、これまで以上に接客の機会が増えるため、語学力の向上に努めていきたいと考えています。遊び、勉強、仕事、そして私生活のすべてを自分で管理する必要があり、決して楽しいことばかりではありませんが、この貴重な経験から少しでも多くのことを吸収し、成長して帰国できるよう、これからも努力を続けていきます。



ディズニー・バレンシア国際カレッジ（アメリカ）

グローバル教養学環 2年

【奨励留学】留学期間：2026年2月～2026年7月

留学が始まって約2カ月がたちました。寮でルームメイトと暮らしながら、週に4～6日ディズニーで働き、毎週木曜日に大学へ通う生活をしています。自分はホームシックになるだろうと思っていましたが、ディズニーキャストになることとアメリカへ行くことが幼少期からの憧れだったため、今の生活が楽しく、いまだにホームシックになっていません。

こちらでの生活が始まって間もないころは、アメリカの物価高に苦しみ、自炊をすることすら高いと感じていました。しかし、仕事が始まり、お給料をもらえるようになると、その物価高にも適応できるようになりました。今では、自分の好きなものを買ったり、休日に友達と出かけたりすることが自由にできています。

ディズニーでの仕事は、朝5時30分から始まる日や、夜12時30分まである日もあり、生活リズムが安定しないことにしんどさを感じています。時には睡眠時間が2時間しか取れないまま8時間働いたこともあります。これも自分の成長につながるだろうとポジティブに捉え、毎日頑張っています。

はじめのころは英語が聞き取れず、ほかのキャストやゲストとのコミュニケーションがうまくできずに落ち込むことがよくありました。しかし、よく使う単語やフレーズをだんだん覚えていき、今では円滑に会話することができています。

大学は午後1時から8時までで、リーダーシップやビジネスマネジメントについて学んでいます。授業時間は長いですが、少人数のクラスでアットホームな雰囲気なので、楽しく授業を受けています。

今の生活の楽しみは、休日に遊びに行くディズニーワールドやユニバーサル・スタジオ、そして寮で友達とバレーやビリヤードをすることです。お給料がたまったら、ニューヨークへ行く計画も立てています。

ディズニーキャストとしての生活には、大変なことや苦しい瞬間がたくさんあります。大事なことは、それを自分の成長のチャンスだと捉える精神と、休日を楽しむための工夫だと思います。



ビクトリア大学（カナダ）

グローバル教養学環 3年

【交換留学】留学期間：2025年8月～2026年4月

私の留学を振り返ると自分と向き合うことが非常に多かったです。というのも初めての海外、しかも8か月の長期留学で、一人で生活をして新しい環境に適応していくのは私の想像以上に辛いものだったからです。家に帰ってもワンワンと吠えるペットの犬はいませんし、家事を手伝わないとドシドシと音を立ててアピールをする母もいません。最初は心地が良かったのですが徐々に寂しさを感じ、自分は案外寂しがり屋なんだなと感じました。日常生活ではアジア人とは話が合うことが多く、その流れでアジア人のコミュニティに入り、安いスーパー、美味しいお店、観光名所などを巡り順調なスタートを切れました。しかし英語を話すとなると自分の語彙力の低さ、発音そしてリスニングが周りよりも下回っていて会話をしたいけどできないことが多く、遊んだ後に自室で ChatGPT に八つ当たりをしながらコツコツと勉強をしました。勉強内容は極めてシンプルで音読、単語メモ、リスニングそしてそのマネをするといったものです。今まで継続して物事に取り組むことが無かったのでイライラすることが多く、ChatGPT に八つ当たりするのも物足りなくなった私は外に出てみることにしました。外に出てみると近くには海、公園そしてスーパーなどがあり、3日で飽きるだろうと踏んでいましたが、日本にはない景色、店員さんとの会話と海の塩臭さを感じられて、なぜかはわかりませんが毎日同じ場所を散歩することが楽しみになりました。これは実に奇妙なことで日本で散歩をしていた際は、先ほど言ったように3日で飽きていたので自分は案外おじいちゃんみたいな行動が似合うのかもしれないと考え直すようになりました。



また留学をして約4か月が経った頃、英語が急にできるようになってきました。ペラペラではありませんが、言いたいことを言える、聞いてわかる段階まで急に来たのです。例えば、日の出を見て少し目を離したうちに、くっきりと太陽が出ているのと同じ感覚でした。来た頃はカタコトで聞いてもわからないことも多かったですが、今は一対一なら普通の会話ができるくらいまでにはレベルが上がりました。自分の小さな努力が自分に自信を与えてくれました。他の人からしたら小さな変化ですが自分にとっては大きくこれだけでも留学をした意味があったと思える出来事でした。私の場合、自由な時間が多い分、自分の本当にしたい事、今までしてこなかったこと、時間を理由に避けてきたことに向き合えたので、そんな



気付きと成長を与えてくれた留学生活は本当に価値のある経験だなと日々感じています。

リーズ大学（イギリス）

文学部社会学科 3年

【交換留学】留学期間：2025年9月～2026年6月

リーズでの留学生活が始まってから約6ヶ月が過ぎ、最初の1、2ヶ月に比べて、よりここでの生活に慣れてきたように思います。

振り返ると、最初の1、2ヶ月はいい意味でも悪い意味でも常に肩に力が入っていて、授業についていくことや、友達を作ることとにかく必死で頑張っていたように感じます。

そのため、体調を崩すことも何回かあったのですが、あの時必死で頑張ったことで、スムーズにここでの人間関係を広げたり、大学生活に馴染んだりすることができました。

この6ヶ月の中で、最も苦労したのは、セメスター1の最終課題のエッセイを書き上げることでした。このエッセイの執筆を通して、沢山のことを学びえることができたと感じています。

まず、集中的にエッセイ作成に向き合ったことによって、自分の英語力が大きく伸びたことです。クリスマスホリデーである12月の間は、基本的に図書館や寮にいて、エッセイの作成のために関連した論文を何本も読んで、構成を考えて、文章を書いては消し、書き直して、を繰り返していました。今までに2500ワードものアカデミックな文章を作成した経験がなく、フィードバックを受け取るまで不安でしたが、無事履修していた全てのモジュールにおいて、合格点を得ることができました。絶対にできないと思っていたことを試行錯誤しながら自分の力で達成できた経験は、この先の自分に自信を持たせてくれると思っています。

また、このエッセイを終わらせることができたのは、同じくエッセイ課題がある友人たちと一緒に支え合いながら取り組むことが出来たからだと考えています。エッセイを書いていた期間は、フラットメイトとリビングルームと一緒に作業をしたり、友人と図書館に集まってこもったり、息抜きにクリスマスパーティーをしたり、映画を見たりしていました。ただ部屋にこもってエッセイを書いていたら、きっと苦しいだけの思い出になったと思いますが、友人がいてくれたおかげで、大変だったけれど、なんやかんや楽しく、いい意味で忘れられない思い出になっています。また、私の大半の友人がセメスター1を終えたあとそれぞれ帰国してしまったのですが、見送る時に、心から別れるのが寂しい、またいつか再会したいと思える友人と、ここで出会えて本当によかったと実感しました。

自分の達成目標を忘れずに、残りの留学生活も有意義に過ごそうと考えています。



イーデス・コーワン大学（オーストラリア）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年
【語学プラス交換留学】留学期間：2025年10月～2026年7月



パースに来てから4ヶ月が経ちました。私は、初めての3ヶ月は語学学校に通い、その後大学に交換留学をする語学プラス交換留学という制度で留学をしています。中高生時代から漠然と「留学に行きたい」という気持ちがありましたが、いざ留学が決まった時はあまり実感が湧きませんでした。空港で家族や友人たちと別れたとき、これから始まる留学生活への期待と同時に不安も強く感じたことを覚えています。

パースに到着して数日後、語学学校が始まりました。語学学校ではプレゼンテーションや要約、エッセイなど様々な課題に取り組み、大学で必要なスキルを身につけるために学びました。

最初の数週間は、これから始まる課題やテストを乗り越えられるのか不安で、自信も失いかけていました。しかし先生はとても親身にアドバイスをしてくださり、少しずつ前向きに取り組めるようになりました。クラスメイトの多くはバングラデシュ出身で、中国人が3人、日本人は私一人でした。最初はうまくやっていけるのか不安でしたが、全員がコース合格という同じ目標に向かって努力していたため助け合いながら仲を深めることができました。特に仲が良かったのは中国人の友人で、彼女はよく私を食事や外出に誘ってくれました。自分の英語力の不足に気持ちが落ち込むこともありましたが、彼女と過ごす時間は良い気分転換になり、課題やテストも助け合いながら乗り越えることができました。

無事に語学学校を卒業し、現在は大学生活が始まっています。まだ新学期が始まって2週間ほどですが、毎日予習や復習に追われています。語学学校とは違い専門科目を学ぶため、授業内容や他の学生との会話についていくことに必死です。また、ホームステイから寮に移ったことで、以前よりも多くの学生と交流する機会が増えました。スピーキングに自信のない私にとって、これはとても良い刺激的になっています。学外では、語学学校で出会った友人や新しくできた友人たちに会うことが楽しみの一つです。

パースで4ヶ月を生活してみて、自然が豊かで人々が温かく、とても住みやすい街だと感じています。また、多民族国家であるため様々なルーツを持つ人々が互いの文化を理解し合いながら尊重している環境はとても魅力的だと思います。残りの留学生活も、学校での学びだけでなくパースでの生活の一日一日を大切にしながら、多くの新しい経験を積んでいきたいです。



ライプツィヒ大学（ドイツ）

グローバル教養学環 3年

【交換留学】留学期間：2025年9月～2026年7月

10か月の留学期間のうち、すでに半年が過ぎ、時間の流れの速さを実感することが多くなった。留学生活も終わりが見え始め、残された時間をより大切に過ごしたいと感じている。本報告書では、ドイツでの生活について以下の内容に分けて述べる。

1. ドイツ留学を通して始めたこと

最初は慣れなかった一人暮らしも、時間が経つにつれて次第に落ち着き、自分の時間をうまく使えるようになってきた。その中で、帰国後も継続できる新しい習慣をドイツで見つけたいと考え、大きく2つのことに挑戦した。1つ目は料理である。これまで一人暮らしの経験がなく、料理をほとんどしたことがなかったが、外食や出前に頼る生活では出費がかさむため、できるだけ自炊を心がけた。最初は面倒に感じていたが、日を追うごとに上達し、次第に料理が気分転換の時間となった。もともとはペペロンチーノなど簡単なパスタしか作れなかったが、今ではパエリアやリゾットなどをレシピからアレンジし、自分の好みに合う料理を作れるようになった。2つ目は筋トレである。運動不足を懸念したことに加え、ドイツでは日本よりもジム通いが一般的であることから、思い切ってジムに通い始めた。最初はつらく、挫折しそうになることもあったが、少しずつ体の変化を感じるようになり、通うことが習慣となった。現在も継続しており、帰国後も続けたいと考えている。

2. 春休みの過ごし方

交換留学中の春休みは想像以上に自由に使える時間が多く、有意義に過ごしたいと考えた。そこで、留学のきっかけとなったスイスのホストファミリーを三年ぶりに訪ねることにした。スイスではホストファミリーやホストスクールの友人と再会し、ドイツ語で会話をしたところ、「以前よりかなり上達したね」と言われ、自身の成長を実感する貴重な機会となった。また、BMW博物館で工場見学にも参加した。説明はドイツ語で行われ、専門用語が多く理解が追いつかない部分もあったが、今後はより難しい内容のドイツ語も理解できるよう、継続して学習に励みたいと感じた。

3. 終わりに

留学当初は、きちんと生活できるかどうか不安もあったが、今では自分なりに充実した留学生活を送れていると感じている。このような貴重な経験の機会を与えてくださった甲南大学の皆様に、心より感謝申し上げます。留学生活も残りわずかとなったが、最後まで悔いのないよう全力で楽しみたいと考えている。



厦門大学（中国）

グローバル教養学環 3年

【交換留学】留学期間：2025年9月～2026年6月

中国での生活も半年が経過しました。毎日中国語を聞き、話す生活にも慣れました。ですが、半年が経った今でも多くの学びと新しい発見がたくさんあります。

まず留学を通して語学面で大きく成長しました。文法や語彙はもちろんそうですが、いちばん成長を感じているのは言語化能力です。今までは、頭の中で言いたいことを考え、中国語に変換し、文を組み立てて発言するという流れで話していました。しかし、すぐにアウトプットができる環境で学ぶことによって、今では言いたいことを短時間で言語化できるようになりました。中国語を使うことへの抵抗が減ったのも大きく関係していると思います。

成長したのは語学面だけではありません。国際情勢が不安定の中ではありますが、中国国内を一人で旅しました。今まで普段私が生活している厦門や厦門近辺のことしか知らず、「厦門で感じた文化＝中国文化」として認識していました。ですが、色々な都市を訪れたことによって、「中国」の中にも多種多様な文化があることを肌身で知ることができました。このような各土地の文化は、実際に訪れたからこそ学べたことだと思います。

そして、留學生活を通していくうえで様々な印象が大きく変わりました。まず、中国人への印象です。日本にいた際に抱いていた中国人のマナーに対しての印象が大きく変わりました。例えば、中国人＝声が大きくてうるさいという印象がありましたが、それにも文化的に理由があることがわかりました。中国語は、日本語と比べてたくさんの発音や変調があるため、大きな声で話さないと会話が通じません。だから、小さな声でも会話が通じる日本語に比べて、声がどうしても大きくなってしまいます。このように、普段日本人が中国人に対して抱いている不満も、「中国人は」という一言で片づける前に、中国の文化を知ることによって、その行為に至る文化的要因がわかり、行為を受け入れる心の余裕ができたと思います。

次に、中国という国に対しての印象も変わりました。日本国内では、やはり中国＝危ないという印象が根強く残っています。ですが、実際に半年過ごしてみて、危ないと感じる経験はほとんどありません。そして、多くの日本人が抱えている中国の印象以上に、中国の技術革新は進んでいます。キャッシュレスだけではなく、セキュリティや交通、デリバリー制度等、生活のあらゆるところで技術の進化を感じます。もちろん進化はいい面だけではありません。ですが、経済発展が現在進行形で進んでいる国ならではの活力は、現地で過ごさなければ感じられないものだと実感しました。

最後に、私の中国での留學生活も残り半分を切りました。私がここで過ごす生活は、もう残り少しなのだなあ、と日に日に実感しています。残り数ヶ月も、後悔がないように精一杯学び続け、沢山の人の人と関わっていきたくたいです。





私が交換留学生として在籍している国立聯合大学は丘の上に位置しており、その立地は生活面に様々な影響を与えています。まずメリットとして挙げられるのは、自然に囲まれた静かな環境で生活できる点であると考えています。キャンパス周辺は緑が多く、空気も比較的きれいで、都市部の喧騒から離れて落ち着いた生活を送ることができ、勉強に励む環境であると強く感じています。また、高台に位置しているため景色が良く、天気の良い日には遠くまで見渡すことができ、気分転換やりフレッシュにもつながっています。このような環境は、学習に集中しやすいという点でも大きな利点であると感じています。

一方で、生活面において不便であると感じる点もあります。特に、通学時の坂道による身体的負担が挙げられます。毎日の移動で長い上り坂を歩く必要があり、加えて大学周辺の公共交通機関は限られているため、移動手段としてバスやバイクへの依存度が高くなっています。さらに、商業施設へのアクセスの不便さも生活に影響を与えています。大学周辺にはスーパーや飲食店が少なく、日用品

の購入や外食の際には市街地まで移動する必要があります。

しかし、このような環境で生活する中で、時間管理や計画的な行動の重要性を実感しています。必要なものを事前にまとめて購入する習慣や、移動時間を考慮したスケジュール管理能力が身についてきていると感じています。

また、甲南大学から国立聯合大学への留学生は私が初めてであり、日本人学生は私一人のみです。同じ授業を受講している学生は皆親切で、私に対して丁寧な中国語で話しかけてくれます。そのため、当初想定していた以上に中国語でのコミュニケーションが取れていると感じています。一方で、円滑に意思疎通ができるようになってきたからこそ、基礎的な語学力の向上に向けた継続的な学習の重要性も強く実感しています。現在は言語センターで中国語を学んでいますが、専門科目を履修できるレベルにはまだ達していないため、前期中にその水準まで引き上げたいと考えています。

さらに、インドネシアをはじめとする東南アジア出身の留学生が多く在籍しており、日常的に会話する機会があります。その中で、挨拶や簡単な返答は自然と身につけてきています。このように、多様な国籍の学生と交流することで、複数の言語に同時に触れる機会を得ており、非常に有意義な経験となっています。

なお、台湾に来てからまだ日が浅く、観光地にはあまり訪れることができていませんが、文化的理解を深めるためにも、次回のレポート提出までに様々な文化に触れていきたいと考えています。現在は客家文化について学んでおり、今後はその理解をさらに深めていきたいと考えています。

